



かかる。警戒レベルが高い夏場は特に、うだるような暑さが巡回者の体力を著しく奪う。十分な暑さ対策が必要だ。

精神的な疲労も相当だ。車内を1台ずつ丁寧にのぞき込む巡回は、子どもが「いる」場合には大きな成果をあげる。しかし現実には、ほとんどが空振り。数年勤めるベテランでさえ、一度も発見したことがない人のほうが多いだろう。ざっと試算してみよう。全国6000軒が日に10回、365日巡回して、発見する車内放置は30件。年間2190万回の巡回に対して30件だけ

疲勞も相当だ。車内を1台ずつ丁寧にのぞき込む巡回は、子どもが「いる」場合には大きな成果をあげる。しかし現実には、ほとんどが空振り。数年勤めるベテランでさえ、一度も発見したことがない人のほうが多いだろう。ざっと試算してみよう。全国6000軒が日に10回、365日巡回して、発見する車内放置は30件。年間2190万回の巡回に対して30件だけ

精神的な疲労も相当だ。車内を1台ずつ丁寧にのぞき込む巡回は、子どもが「いる」場合には大きな成果をあげる。しかし現実には、ほとんどが空振り。数年勤めるベテランでさえ、一度も発見したことがない人のほうが多いだろう。ざっと試算してみよう。全国6000軒が日に10回、365日巡回して、発見する車内放置は30件。年間2190万回の巡回に対して30件だけ



続きはデジタルブックでご覧いただけます。
 詳細はこちら▶

子どもが車内に放置されて死に至る事故を防ぐために、遊技業界は通年で対策を行っている。1年の中でも日差しが強まる7月と8月は、警戒レベルを最も引き上げる「特別強化期間」。どうか今年も犠牲者が出ませんように。そう願わずにはいられない。

日本自動車連盟(JAF)の実験によれば、外気温35度の炎天下で自動車のエアコンを停止させると、車内温度は10分程度で外気温と同等になる。以後も車内温度はぐんぐんと上昇。無対策の黒色車両では1時間後に50度を超える。サンシェードの装着や数センチの窓開けは、「やらないよりはまし」な

程度だ。他方で熱中症の危険度を表す指数は、エアコンの停止後5分で警戒、10分で嚴重警戒、15分で危険レベルに到達する。熱中症は最も重篤な場合、治療が遅れると死に至る。一命を取り留めても、熱に弱い心臓や脳には永続的な損傷が。体温調節機能が未発達の子は特にリスクが高い。

遊技業界が取り組む事故防止対策の歴史は古い。全日遊連は1998年から集計を開始。ホール関係5団

台風による荒天もあるだろう。店舗を出入りするときに感じる急激な気温変化にも心を配りたい。

過去の繰り返さない

子どもの車内放置防止対策マニュアル

1店舗あたりの平均設置台数は近年、増加傾向にある。郊外の大型店では、広大な駐車場を備えることも多いはずだ。毎時の巡回は、駐車スペースの広さに応じた重労働になる。ホールの駐車場巡回に詳しい想画(東京都)の田中統蔵代表は、次のように話す。「当社は多数の店舗様にお邪魔して、巡回の状況を見てまいりました。駐車台数が500台を超えると、適正な巡回にかかる時間は1時間超。毎時1人でこなすことは、物理的に困難になります」

このご時世で従業員を余らせている店舗はない。すると何が起きるか。精度を欠く巡回が足早に行われ、目的がチェック欄を埋めることになってしまう。駐車スペースが少ない店舗では、ただの散歩だ。遊技産業健全化推進機構の現地レポート記事によれば、毎時の巡回が行われていない店舗もある。営業者の意識が問われている。

子どもが自宅に置き去りにされることもある。名古屋市中川区。報道によれば、逮捕された父(30)は23年9月、パチスロをするため(3)を繰り返す自らは無事。表面化しただけのケースはあり。車内放置で死亡した子どもは、巡回業務は重労働

子どもが自宅に置き去りにされることもある。名古屋市中川区。報道によれば、逮捕された父(30)は23年9月、パチスロをするため(3)を繰り返す自らは無事。表面化しただけのケースはあり。車内放置で死亡した子どもは、巡回業務は重労働

少しの時間が、取り返しのつかない時間に。

子どもの車内放置は「児童虐待行為」です。

お客様連れでのご来店は固くお断りしております。
 車内に置き去りにされたお子様を見つけたら、当ホール係員又は警察までご連絡下さい。

過去20年間に起きた車内放置による死亡事故

日付	発生地	被害者	逮捕者
2017年7月8日	静岡県湖西市	1歳11カ月の男児	父(25)
2017年5月11日	山口県防府市	生後2カ月の女児	母(23)
2014年6月10日	沖縄県那覇市	生後5カ月の男児	母(40)
2012年8月16日	三重県桑名市	生後5カ月の男児	母(45)
2011年7月25日	石川県輪島市	1歳の女児	父(36)と母(38)
2010年5月12日	高知県高知市	生後6カ月の男児	母(26)
2009年8月27日	秋田県由利本荘市	生後11カ月の男児	母(31)
2008年4月14日	鹿児島県姶良市	1歳7カ月の男児	母(35)
2006年5月28日	愛知県豊明市	生後2カ月の男児	父(24)と母(23)

体(当時)は2013年1月に対策マニュアルを制定した。それまで5年連続で発生していた死亡事故は13年度に0件となった。ホール駐車場で起きた子どもの死亡事故数は、直近20年間で9件を数える。最後に発生した事故は、17年7月に静岡県湖西市で。それ以降はホール業界の熱心な駐車場巡回によって、500人以上の命が救われている。

死亡事故を減らすには、保護者が認識を改めることに尽きる。しかしホール側がどれだけ啓発しても、車内放置がなくなる気配はない。一時期よりも減っているとはいえ、直近5年間で年間20〜30件のペースで発生。危険な暑さになる日が年々増える中で、今後十分な啓発と巡回が必要になる。

子どもを水際で救い出す巡回業務は尊い。だが巡回者には、身体的にも精神的にも非常に大きな負担がかかる。子どもが自宅に置き去りにされることもある。名古屋市中川区。報道によれば、逮捕された父(30)は23年9月、パチスロをするため(3)を繰り返す自らは無事。表面化しただけのケースはあり。車内放置で死亡した子どもは、巡回業務は重労働